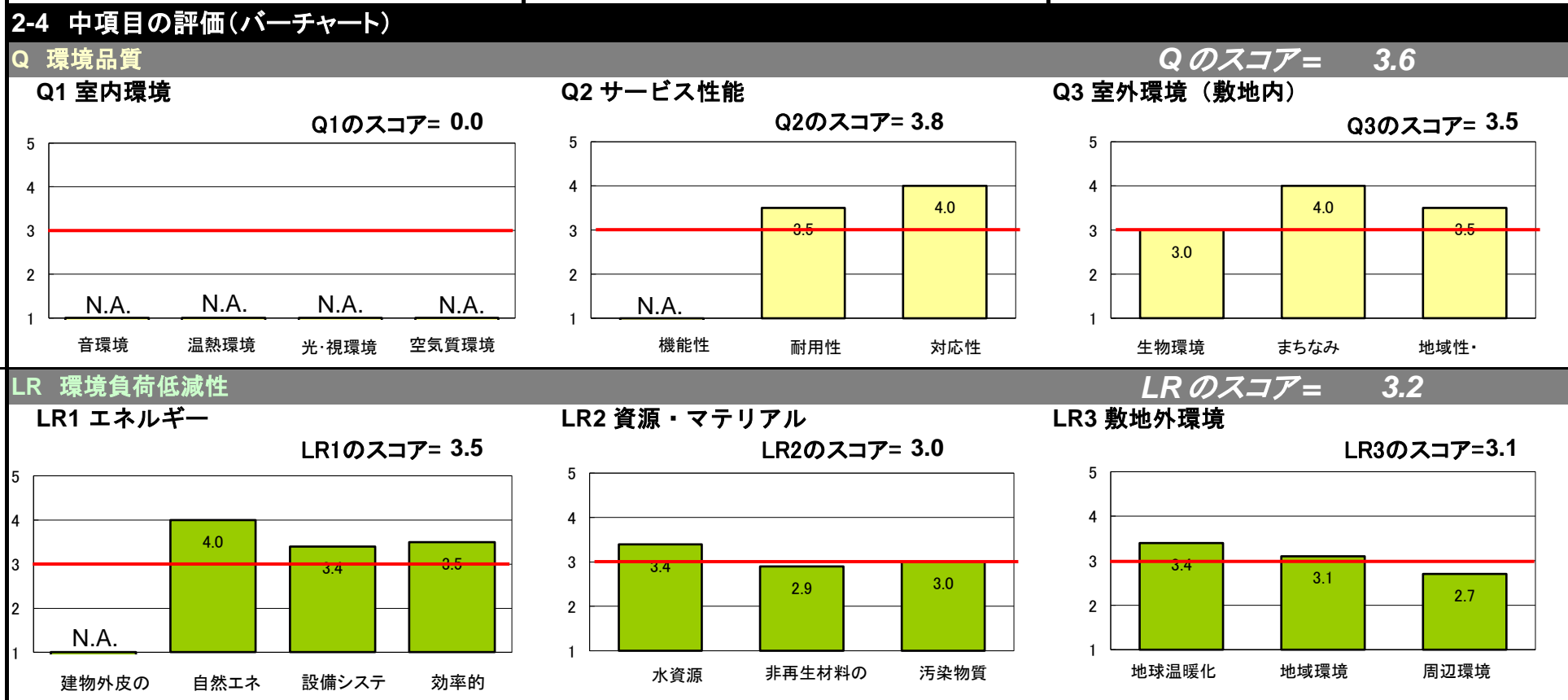
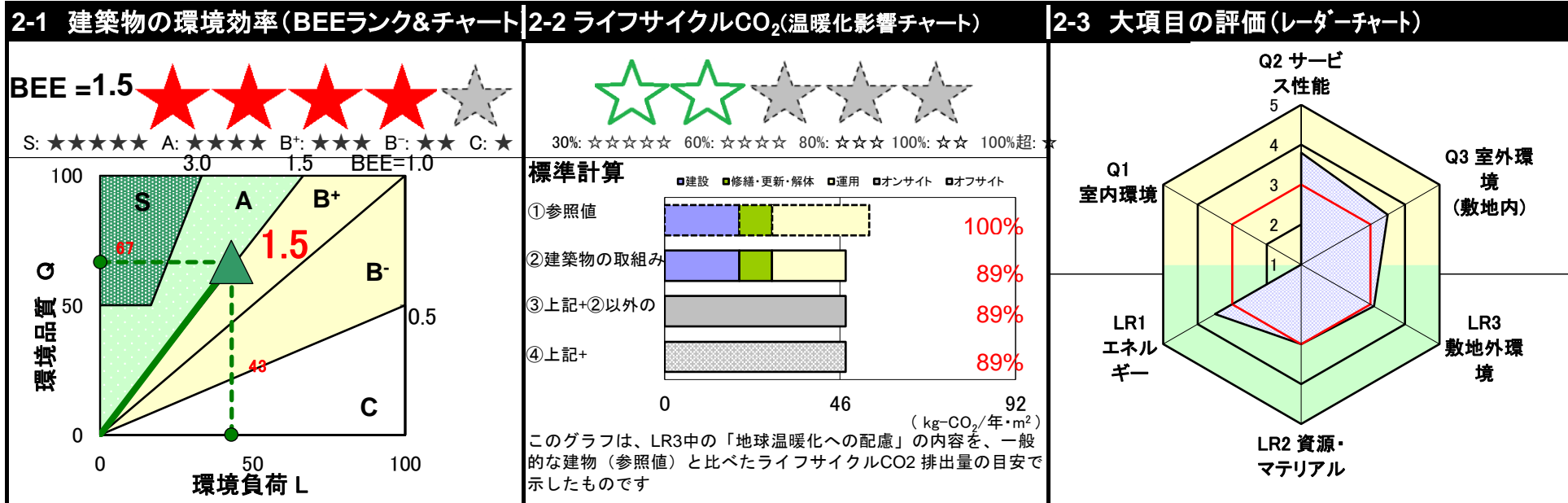


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社フジキカイ新事業所 工場棟	階数	地上3階
建設地	愛知県北名古屋市沖村西部土地区画整理事業10街区1-3	構造	S造
用途地域	工業地域、法第22条指定地区(屋根)	平均居住人員	200人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,100時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2019年5月1日
敷地面積	37,894 m ²	作成者	鷹野陽平
建築面積	11,495 m ²	確認日	2019年5月14日
延床面積	25,640 m ²	確認者	池田沙瑛子



3 重点項目					
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.4</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>46.1 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	46.1 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	46.1 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.4</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄				評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
		Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境												-	
1 音環境												-	
1.1 室内騒音レベル												3.0	
1.2 遮音												-	
1 開口部遮音性能												-	
2 界壁遮音性能												3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												3.0	
1.3 吸音												3.0	
2 温熱環境												-	
2.1 室温制御												-	
1 室温												3.0	
2 外皮性能												3.0	
3 ゾーン別制御性												3.0	
2.2 湿度制御												3.0	
2.3 空調方式												3.0	
3 光・視環境												-	
3.1 昼光利用												-	
1 昼光率												3.0	
2 方位別開口												3.0	
3 昼光利用設備												3.0	
3.2 グレア対策												-	
1 昼光制御												3.0	
3.3 照度												3.0	
3.4 照明制御												3.0	
4 空気質環境												-	
4.1 発生源対策												-	
1 化学汚染物質												3.0	
4.2 換気												-	
1 換気量												3.0	
2 自然換気性能												3.0	
3 取り入れ外気への配慮												3.0	
4.3 運用管理												-	
1 CO ₂ の監視												3.0	
2 喫煙の制御												3.0	
Q2 サービス性能												0.43	
1 機能性												-	
1.1 機能性・使いやすさ												-	
1 広さ・収納性												3.0	
2 高度情報通信設備対応												3.0	
3 バリアフリー計画												3.0	
1.2 心理性・快適性												-	
1 広さ感・景観 (天井高)												3.0	
2 リフレッシュスペース												3.0	
3 内装計画												3.0	
1.3 維持管理												-	
1 維持管理に配慮した設計												3.0	
2 維持管理用機能の確保												-	
2 耐用性・信頼性												0.5	
2.1 耐震・免震・制震・制振												0.4	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												3.0	
2 免震・制震・制振性能												4.0	
2.2 部品・部材の耐用年数												0.3	
1 躯体材料の耐用年数												3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔												3.0	
2.4 信頼性												0.1	
1 空調・換気設備												3.0	
2 給排水・衛生設備												3.0	
3 電気設備												3.0	
4 機械・配管支持方法												3.0	
5 通信・情報設備												3.0	

3 対応性・更新性			0.4	4.0	0.48	-	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	4.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	4.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	4.0	0.28	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.76	3.0	3.4	0.43	-	-	3.4
4 効率的運用			0.2	3.5	0.29	-	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			1.0	3.5	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	4.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.9	0.63	-	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	3.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	4.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	-	-	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	1.00	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	1.6	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	1.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社フジキカイ新事業所 工場棟

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.5	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:46.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社フジキカイ新事業

計画上の配慮事項	
総合	工場と事務所が一体となった工場を目指し、また、来客者の見学にも配慮した計画としている。
Q1 室内環境	3F工場は天井からの自然光を取り入れ、閉鎖感のない空間としている。
Q2 サービス性能	来客者の見学者動線を取り入れ、2Fから工場内を見学できる十分なスペースと開口を設けた。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地周囲には緑豊かな植栽を配置し、良好な環境を作り出している。
LR1 エネルギー	外壁や屋根には断熱性能の高い建材を採用し、省エネルギーに配慮している。
LR2 資源・マテリアル	敷地内の建物は同じ建材を採用し、建物群として統一感を出している。
LR3 敷地外環境	道路境界面に植栽を設け、周辺環境に配慮している。
その他	なし